

2016年7月

ナイジェリア港湾情報

Lagos 港/Port Harcourt 港における海賊

当該水路/海域は Nigeria Naval Police 及び他の執行代理人によりモニターされている。Naval Police は 24 時間沿岸域をパトロールしている。

しかし、当該地域で海賊が非常に活発に活動していると警告せざるをえない。昨年、我々は複数の海賊襲撃事案を取り扱ったが、海賊らの手口は、タンカーを乗っ取り、AIS のような航行機器や他の通信システムを切断し、貨物を他のタンカーに積み替え、そして数日後に本船を解放するというものであった。

ギニア湾では乗組員は特に警戒を怠らず継続することが重要である。港が混雑している場合には、船舶は海賊船が到達できない場所に停泊すべきである。現地当局に申請がなされ、安全が確保されている場合を除いて、メンバーはいかなる場合にも STS オペレーションを受諾してはならない。

メンバーは、港での船混みのため錨地 (Port Harcourt/Onne 寄港の場合は Bonny inner anchorage) で暫く待機しなければならないと当然予想していることだろう。ただし、積荷の種類次第で待機時間は変わる。コンテナ船及びタンカーは、通常、一般貨物船/撒積船よりも優先されるため、この点であまり多くの問題を生じない。

もしそのような待機時間があるならば、海賊乗船の可能性を最小限にするために、船長は FWB(Lagos Fairway Buoy)より出来るだけ離れて停泊すべきである。Lagos/Bonny (ベニン湾) 沖で海賊の襲撃事故が発生したが、これらは主として乾舷が低いタンカーや小さなオフショア支援船で発生した。しかし、船舶は公海上、錨地あるいは着岸中のいずれにおいても、不法な乗船を防ぐためにあらゆる適切な手段を講じるべきである (たとえば、レーザーワイヤーを使用したり、見張りを増加させ、高圧消火管/ホース、居住区/貨物スペース/甲板倉庫へのアクセスを制限し安全確保に努めたり、甲板パトロールの頻度を上げたり、等々)。錨地及び沿岸水域は Nigerian Navy がおそらくパトロールしている。待機時間中に承認された者以外の乗船は許可してはならない。

代替手段として、Lagos 西方の SAA(Safe Anchorage Area)への錨泊は可能である。ここでは、Nigerian Navy と協調して活動する民間警備会社(OMS)が船舶を防護/パトロールする特定区域に錨泊できる。同社の詳細は www.saawestafrica.com で入手可能である。

一旦着岸したら、不法な侵入や強奪の企てを防ぐため、本船へのアクセスは 24 時間管理されるべきである。揚陸しようとする乗組員は、陸上での個人に対する襲撃/強奪に警戒を怠ってはならない。

当該地域で補油する場合は、船長/代理店は非常に注意深くあるべきであり、極めて公式なルートでのみ手配すべきである。現在、当該地域では油（通常、燃料油グレード）のごまかしがあり、たとえごまかしと関連がなかったとしても、不法な補油は深刻な結果をもたらす可能性がある。いかなる STS オペレーション（燃料油あるいは貨物）も、適切にモニターされるよう、当局に通知/申告されるべきである。数隻の船舶は、申告せずに沖合離れた場所で監視なしに実施された STS オペレーション中に襲撃された。

ベニン湾及びギニア湾（アンゴラから南方へ離れてはいるが）でも海賊襲撃が発生している。これらの襲撃は通常高度に組織化されており、概して、MGO や IFO を運送する乾舷の低い小型タンカーやオフショア船に対してなされている。このような場合、標的にされるのは高価な貨物であり、待機している他の船舶/バージに（闇市場での売却のために）一部あるいは全部の貨物が揚げられ、数日後に本船は解放される。海賊は非常に暴力的で、彼らの犯罪的活動は専らナイジェリアに本拠を置く組織によりなされている。かかる組織が、ナイジェリアに存在すると思われる闇の商業・政治的組織と繋がっていたり、その援助を受けていることに疑念の余地はない。

以上